

令和 6 年 6 月 21 日現在

機関番号：23302

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2023

課題番号：19K19682

研究課題名（和文）治療後に出産するAYA世代がんサバイバーの周産期ケアモデル構築のための研究

研究課題名（英文）Research to develop a perinatal care model for AYA generation cancer survivors who give birth after treatment

研究代表者

桶作 梢（Kozue, Okesaku）

石川県立看護大学・看護学部・講師

研究者番号：70785831

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：AYA世代がんサバイバーは性や生殖、パートナーとの人間関係に関する課題を抱えている。セクシュアリティにまつわる悩みや困りごとを医療従事者と共有するためのツールを開発し、当事者のニーズをケアへとつなぐモデルを考案することを最終的な目標とした。2019年度にツールの質問項目作成を目的にAYA世代がんサバイバー13名（男性5名、女性8名）を対象とした質的研究を行った。この結果と先行文献を参考にツール素案を作成した。2021-2022年度に医療従事者と当事者を対象としたデルファイ法による調査を行い、ツールの内容妥当性を検討した。今後はツールの効果検証、医療機関における使用方法の検討を行う必要がある。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究者が開発した「AYA世代がんサバイバーのセクシュアリティに関する情報共有ツール」は、回答者の性別やがんの種類を問わずに使用できるツールである。回答者の治療時期に合わせた質問項目を選択することが可能であり、どの治療時期からでも使用を開始することができる、自由記載とチェックシートの機能を備えた問診票である。このツールには治療後に子どもを持つこと・もたないことにまつわる選択が多様化する現状に即し、妊娠合併や生殖器喪失の経験など、AYA世代がんサバイバーの中でもマイノリティの人々の悩みを取り残すことなく汲み取ることが可能な質問項目で構成されており、新規性と独自性がある。

研究成果の概要（英文）：AYA generation cancer survivors face challenges related to sexuality, reproduction, and relationships with their partners. The ultimate goal of the project was to develop a tool to share concerns and problems related to sexuality with healthcare professionals and to devise a model to link the needs of the people involved to their care. A qualitative study of 13 AYA generation cancer survivors (5 men and 8 women) was conducted in FY 2019 for the purpose of developing the tool's questionnaire. In FY2021-2022, we conducted a survey using the Delphi method with health care providers and the parties involved to examine the validity of the tool's content. In the future, it will be necessary to verify the effectiveness of the tool and examine how to use it in medical institutions.

研究分野：母性看護学

キーワード：AYA世代 思春期・若年成人 がん セクシュアリティ 妊孕性 ツール

1. 研究開始当初の背景

AYA 世代がん患者は生殖年齢であるがゆえに、化学療法や手術などがん治療に伴う生殖及び性機能への影響は非常に大きな問題となっている(平山ら, 2018)。AYA 世代がんサバイバーは他の年代と比較して性と生殖に関する悩みやパートナーと親密な関係になることに関する悩みをもつ(Galan et al., 2017)こと、さらに AYA 世代がんサバイバーの 3 割程度が診断後 2 年経過しても性機能の悪影響がある(Wettergren et al., 2017)ことが報告されている。また、手術療法、薬物療法や放射線治療の影響で起こる性機能障害や生殖機能障害は生殖器以外の部位にがんが発症した場合であっても起こる(高橋, 2004; 渡邊, 2018)。よって、AYA 世代がんサバイバーの一部はがんの種類を問わず、長期にわたりセクシュアリティに関する悩みを抱えていると推測される。

日本では 2018 年 3 月がん対策推進基本計画(第 3 期)が閣議決定され、小児・AYA 世代のがん患者に対する生殖機能障害および妊孕性温存に関する情報提供および意思決定支援体制整備が重要な課題として取り上げられた。本領域は、主治医であるがん治療医と生殖医療を専門とする医師の密な連携のみならず、看護師、薬剤師、心理士、遺伝カウンセラー、相談員など多職種の医療従事者によるサポートが重要(鈴木ら, 2019)であり、これら医療従事者から成るがん・生殖医療ネットワークの全国展開が必須となっている(厚生労働科学研究班, 2020)。だが、生殖補助医療施設を併せ持つがん拠点病院は少なく、がん患者の妊孕性温存達成には医療施設間の連携による積極的な取り組みが必要とされている。2021 年度から小児・AYA 世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業により、妊孕性温存療法に係る費用の一部を助成が開始された(厚生労働省, 2021)。このように日本では AYA 世代のがん患者が妊孕性温存療法を選択できる環境が急速に整えられている。その一方で看護師をはじめとする支援者には困難が生じている。AYA 世代でがんを患う人々の支援経験のある日本の看護師を対象とした質的研究(服部ら, 2021)では、「発達段階に合わせた支援の難しさ」「妊孕性温存に関する環境を整えることの難しさ」「妊孕性温存について納得できる関りができないことへの葛藤」などの困難さがあることが報告されている。また、AYA 世代患者の治療や経過観察に携わる部門に 1 年以上勤務している日本の看護師を対象とした調査(Tomioka et al., 2022)では、成人診療科(乳腺科、婦人科を除く)に所属する看護師、がん看護の経験が豊富な看護師、がん関連の学会に所属する看護師、認定看護師・専門看護師は、性と生殖に関する問題への支援が不十分であると認識していた者の割合が有意に高く、性と生殖の問題に対処することへの困難を感じていた。以上から、看護師は AYA 世代でがん罹患した患者の妊孕性温存を含むセクシュアリティ支援の重要性を認識しているが、支援への困難を抱えているといえる。以上から、セクシュアリティに関する悩みや困難を抱える AYA 世代がんサバイバーと、重要性を感じながらもセクシュアリティに関する支援の困難さを抱える支援者をつなぎ、サバイバーに必要な支援を提供するための方策が必要であると考えられる。

2. 研究の目的

本研究の目的は以下の 3 点である。

1. AYA 世代がんサバイバーのセクシュアリティにまつわる経験を明らかにする
2. ツールの作成
3. ツールの表面妥当性・内容妥当性の検討

3 . 研究の方法

1) 文献検討

AYA 世代がんサバイバーのセクシュアリティを評価/アセスメントするツールを文献検索にて抽出し、ツールの形式、対象者、セクシュアリティに関する評価/アセスメントの要素を明らかにすることを目的に文献検討を行った。データベース医学中央雑誌 Web 版、CINAL Complete、PubMed を用い、2019 年 9 月に文献検索を行った。

2) 質的研究

AYA 世代がんサバイバーのセクシュアリティにまつわる経験を明らかにすることを目的に、質的研究を行った。

がん治療により妊娠中断を余儀なくされた AYA 世代女性を対象とした質的研究
がん治療により妊娠中断を余儀なくされた AYA 世代の女性 2 名を対象に半構造化面接を行い、質的記述的に分析した。

AYA 世代でがんを発症した男女を対象とした質的研究

AYA 世代でがんを発症し、現在 18-39 歳の男性 5 名、女性 6 名を対象に半構造化面接を行い、質的記述的に分析した。

3) ツールの作成および内容妥当性の検討

がん専門看護師 2 名への意見聴取ツール素案の表面妥当性を検討した。この結果を踏まえツール素案の修正を行った。次に、AYA 世代支援経験がある専門家(医師、心理職、臨床経験 5 年以上の看護師、患者会代表者)と当事者(AYA 世代がんサバイバー)を対象とした 2 段階のデルファイ法による調査を行った。各質問項目の重要度を 5 段階のリッカートスケールで回答を求めた。対話シートの質問項目・形式・記載方法への意見を自由記載で求めた。専門家と当事者がともに高い合意率(項目が非常に必要、必要と回答した者の割合が 70%以上)であることを原則とし、専門家と当事者のうち一方が中等度以下の合意を示す場合は自由記載内容と併せて質問項目の採用や修正を検討した。

4 . 研究成果

1) 文献検討

海外文献 18 件を分析対象とした。対象文献のうち、16 件は尺度、1 件は質問紙、1 件はチェックリストであった。がん当事者を対象としたツールが 17 件、パートナーを対象としたツールが 1 件であった。当事者を対象としたツールのうち、男女を対象としたツールは 3 件あり、いずれもがんの種類を定めていなかった。セクシュアリティを評価/アセスメントする要素を検討した結果、6 つの要素【fertility】、【sexual activity/sexual function】、【relationship】、【body image】、【sexuality】、【others】に整理された。しかし全ての要素を網羅したツールは見当たらなかった。

2) 質的研究

がん治療により妊娠中断を余儀なくされた AYA 世代女性を対象とした質的研究

女性は<同時期に訪れるがんによる身体の辛さと子を失う衝撃>から【がんが再発するかもしれないのにその先の未来を考えることが怖い】、【児の喪失による耐え難い心の痛み】という心情を抱いていた。【児の喪失による耐え難い心の痛み】は<がん治療中に求める子

を失った悲しみや辛さへのケア>へと至っていた。こうした心情と<がん治療による妊孕性低下への危惧>、<今はまだ妊娠できる年齢だと意識する>、<夫婦関係の親密性の変化>、<夫婦は子をもつものという社会通念への囚われ>が契機となり、女性はがん治療後長期間にわたり『子をもつ可能性が残されているがゆえの葛藤と苦しみ』を抱いていた。

AYA 世代でがんを発症した男女を対象とした質的研究

男女ともに(誠也子を持つことの悩みを一人で抱え込む)経験をしていた。男性は(男として受け入れられることへの自信の喪失)によってアイデンティティが揺らぎ【子をもてないかもしれないことでパートナーの将来への負の影響を危惧する】経験をしていた。女性は【外見の変化や後遺症のためにパートナーの反応に受け身になる】経験をしながらも【子をもてないかもしれないと思いながらパートナーとの関係性と子をもつ意味を再考する】に至っていた。

総括

AYA 世代がんサバイバーはがん治療や後遺症による外見の変化について、性機能・生殖機能について、パートナーとの関係について、性や子をもつことの悩みの相談先について、子をもつこと・もたないことの悩みや問題を経験していた。しかし、その内容はサバイバーの性別、がんの種類、がん治療の内容、パートナーの有無、妊娠の有無によって一人一人異なり、多様であった。なかでも子をもつことにかかわる選択の様相は複雑であり、がん診断時の妊娠の有無、がん治療が生殖機能・性機能に及ぼす影響や妊孕性温存治療の情報提供の有無、妊孕性温存治療の選択、妊孕性温存治療の結果によってサバイバーの心情や経験は異なっていた。がん治療後には、「実子をもつことができない」「実子をもつことが可能かもしれない」という状況に置かれ治療後に子をもつことに関わる様々な選択に対峙していた。

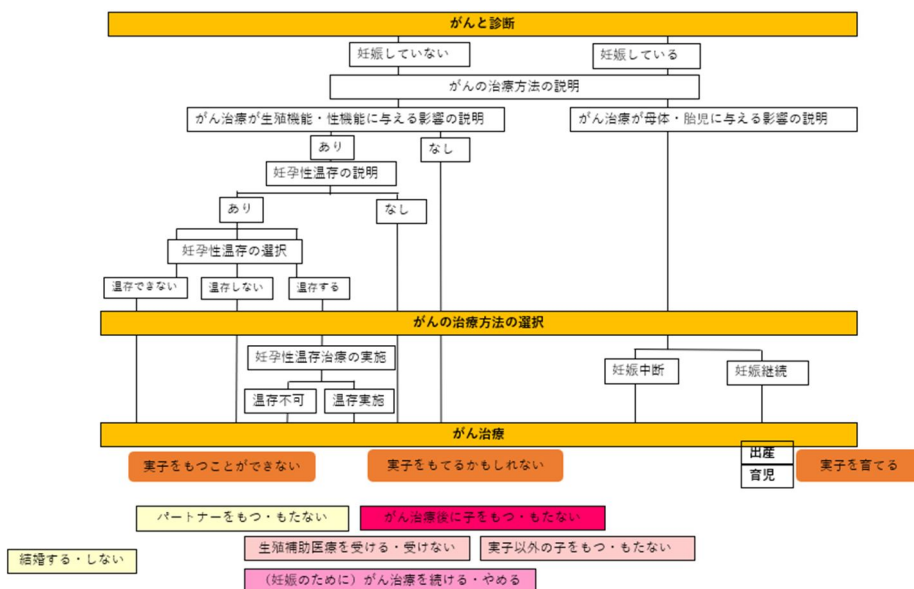


図1 AYA 世代がんサバイバーが子をもつことにかかわる選択の様相

3) ツールの作成および内容妥当性の検討

第1回調査は条件に該当する専門家89名、当事者32名に配布した。返送があったもののうち研究参加中断の希望が明記された1通を除き、有効回答が得られた専門家55名、当事者30名を分析対象とした。有効回答率は70.2%であった。第2回調査では第1回調査回答者のうち、第2回調査資料郵送先が明記されていた専門家44名、当事者30名に配布し、返送があった専門家39名、当事者25名を分析対象とした。有効回答率は86.5%であった。

最終的に「AYA世代がんサバイバーのセクシュアリティについての対話シート」の質問項目は治療前30項目、治療中16項目、治療後42項目に収束された。自由記載の結果から、「対話シート」の使用方法を具体的に検討する必要性が示唆された。完成版対話シートと既存のツール(海外)の比較した結果、完成版対話シートの大項目【性と子どもをもつこと・もたないことに関する悩みの相談先について】、【妊娠中にがんと診断された方の心情について/妊娠中断を選択した方の心情について】、【今の気持ちについて】は既存のツールには含まれない内容であった。

<引用文献>

- 平山 貴敏, 清水 研 (2018):【尿路性器がん患者の長期フォロー】精巣腫瘍を含むAYA世代のがん患者に対する心理社会的問題と支援, 泌尿器外科, 31(12), 1625-1629.
- Galan, S., de la Vega, R., Tome Pires, C., et al. (2017): What are the needs of adolescents and young adults after a cancer treatment? A Delphi study. Eur J Cancer Care (Engl), 26 (2). <https://doi.org/10.1111/ecc.12488>.
- Wettergren, L., Kent, E. E., Mitchell, S. A., et al. (2017): Cancer negatively impacts on sexual function in adolescents and young adults: The AYA HOPE study. Psychooncology, 26 (10), 1632-1639. <https://doi.org/10.1002/pon.4181>.
- 高橋 都 (2004):【現場でできるセクシュアリティのケア】がん患者のセクシュアリティ 問題点の整理とケアの可能性, ターミナルケア, 14(5), 349-355.
- 渡邊 知映 (2018): がん患者の性と生殖, 日病薬師会誌, 54(8), 955-959.
- 鈴木 直, 高井 泰, 野澤 美江子, 他 (2019): ヘルスケアプロバイダーのためのがん・生殖医療 (第1版), 222-223, メディカ出版, 大阪.
- 厚生労働科学研究班「がん・生殖医療連携ネットワークの全国展開と小児・AYA世代がん患者に対する妊孕性温存の診療体制の均てん化にむけた臨床研究 がん医療の充実を志向して」研究班 (2020): がん治療と妊娠 地域医療連携 がん・生殖医療の均てん化を目指して, Retrieved from: <https://j-sfp.org/cooperation/about> (検索日: 2022年12月11日)
- 厚生労働省 (2021): 小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業, Retrieved from: https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkouhttps://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/gan/gan_byoin_00010.html/gan/gan_byoin_00010.html. (検索日: 2023年4月25日)
- 服部 佐知子, 山本 真実, 布施 恵子, 他 (2021): がんを患うAYA世代の人々への支援において看護職が心がけていることと困難さ, 岐阜県立看護大学紀要, 21(1), 27-36.
- Tomioka, A., Obama, K., Okada, H., et al. (2022): Nurse's perceptions of support for sexual and reproductive issues in adolescents and young adults with cancer. PLoS one, 17 (6). <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0265830>.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 桶作梢, 米田昌代, 濱耕子	4. 巻 63
2. 論文標題 がん治療のために妊娠中断を余儀なくされたAYA世代女性がんサバイバーの次子妊娠への思いと契機	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 母性衛生	6. 最初と最後の頁 968-976
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 桶作梢, 濱耕子, 米田昌代	4. 巻 43
2. 論文標題 AYA世代がんサバイバーのセクシュアリティにまつわる経験	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本看護科学会誌	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5630/jans.43.1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 桶作梢, 濱耕子, 米田昌代	4. 巻 35 (3)
2. 論文標題 AYA世代がんサバイバーのセクシュアリティを評価/アセスメントするツールに関する文献検討	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 看護実践学会誌	6. 最初と最後の頁 35-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 桶作梢, 濱耕子, 米田昌代
2. 発表標題 がん治療のために妊娠中絶を余儀なくされたAYA世代女性がんサバイバーの次子妊娠への思いと契機
3. 学会等名 第36回日本助産学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kozue Okesaku, Kouko Hama, Masayo Yoneda
2. 発表標題 Evaluate of the content validity of an information-sharing tool on the sexuality of adolescent and young adult cancer survivors .
3. 学会等名 27th East Asia Forum of Nursing Scholars, Hong Kong (国際学会)
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関